

全国「つむぐもの」プロジェクトはこのほど、介護をテーマにした映画「つむぐもの」の上映会の開催を呼び掛けている。地域の介護職の研修会や交流会での活用も可能で、同作品の犬童一利監督（30）を呼んでトークショーを行うことも可能だという。

映画は、半身まひになった昔気質な和紙職人と、ワーキングホリデーで来日した韓国人女性との介護を通じた交流を描く。職人をベテラン俳優の石倉三郎さんが演じる。

舞台は、伝統産業が盛んな福井県の丹南地方。韓国・プヨ郡と友好都市であることから企画された。16年3月に東京を皮切りに全国で上映され、世界12大映画祭の一つ上海国際映画祭にも招待。厚生労働省のタイアップ作品に認定され、全国老人福祉施設

協議会の後援も受けた。

制作にあたり犬童監督は何度も施設に足を運び、介護の仕事を経験。「きれいごとではない面を体験する一方で、職員が利用者の人生を支えようとする姿に心打たれた。若い世代に見てもらい、介護のイメージを変えてもらえれば」と話す。

上映会は学校や就職フェアなどで活用できる。既に徳島県や横浜市、秋田県北秋田市の社会福祉協議会、埼玉県や島根県の福祉専門学校などでも上映会が行われた。

料金は2万円からだが人数によって異なり、150人なら10万円。問い合わせは、プロジェクト事務局本部（☎ 03・3568・4679, tokuta@soul-a.com）へ。

（福祉新聞・第2789号2016年12月5日）